

先端技術キーワード解説

知っておきたい最新の動き

[アンドロイド (Android)]

日経エレクトロニクス 2009年1月11日号のページをめくっていたら、見覚えのある顔が目飛び込んできました。NEC ビッグロブの社長をされている飯塚久夫氏です。筆者の大学の同級生です。2、3年前に会った時から、少し時間の流れ(?)を感じさせますが、間違いなく彼でした。記事の内容は、アンドロイドを格納した機器を提供する事業を開始することです。今月は、急速に動きが始まったこのアンドロイドを取り上げてみたいと思います。

アンドロイド (Android) とは、携帯電話などを主なターゲットとして開発された、リナックス (Linux) ベースのモバイル機器用ソフトウェアのプラットフォームです。オープンソース・オペレーティングシステム、ミドルウェア、主要なアプリケーションなどを組み込んでいます。音楽ダウンロード、SNSなどの各種携帯電話サービスに対応しています。米グーグル社 (Google Inc.) が、無償で誰にでも提供すると発表後、2008年10月から対応する携帯電話が次々と販売されています。

一般の携帯電話は、組み込みのオペレーティングシステム (Embedded OS) と端末メーカーが開発したアプリケーション (Embedded Application) を搭載しています。すべて、端末メーカー独自仕様で組み込まれているので、購入時の仕様から追加や変更したりすることはできません。市販されている携帯電話の大半はこの形式となっています。



これに対して、スマートフォンと呼ばれる携帯電話があります。汎用性の高いモバイル・オペレーティングシステム (Mobile OS) を搭載し、その上位に独自に作成した様々なアプリケーションが動作できるようになっているものです。端末メーカー以外の開発者が、開発キットを用いて各種アプリケーションを作成することができます。

これまで、スマートフォンのモバイル・オペレーティングシステムは、「シンビアン (Symbian)」、「ブルー (Brew)」、「ウィンドウズモバイル (Windows Mobile)」の3システムが広く利用されていました。「Symbian」は欧州の携帯市場 (GSM 方式) で普及しており、世界のスマートフォン市場の半数以上に搭載されています。クワルコム社は CDMA 方式で利用する「Brew」を提供しています。これに対抗して、マイクロソフト社は、両方式に対応する「Windows Mobile」を提供し、米国で急速に伸びていました。

このような動きの中、グーグルは、携帯機器の規格団体「オープン・ハンドセット・アライアンス」 (Open Handset Alliance : OHA) を立ち上げるとともに、アンドロイドを発表しました。

これにより、グーグルは、これまで事実上、携帯インターネット市場を独占してきた米マイクロソフト (Microsoft)、アップル (Apple)、フィンランド通信機器ノキア (Nokia) などに、挑戦状を突きつけたこととなります。これら3社は「Open Handset Alliance」に参加していません。特に、マイクロソフトに対しては、オペレーティングシステム (OS) の独占で市場を広げてきたマイクロソフト製品に十分に競合しうる態勢を整え、対決する姿勢を鮮明にしたと言えそうです。

冒頭の日経エレクトロニクスの記事では、NEC ビッグロブ社が、2010年にアンドロイドを搭載した携帯型情報端末事業の提供を開始、併せて2012年までに、アンドロイド上で動作するアプリケーションをWeb上で提供するサービスを開始するとのことでした。なお、他にもNTT 東日本が、2009年にアンドロイド端末を使う情報配信サービスを開始、これには凸版印刷や読売新聞などの情報提供企業が参加しているとのことでした。また、フリービットも2010年の製品化を目指し、デジタルフォトフレーム機能を備えたアンドロイド端末を開発中とのことでした。本端末はWebサーバーとしても機能します。

当初、携帯電話への搭載を想定したアンドロイドですが、応用分野はさらに拡大しそうな勢いです。

(日経エレクトロニクス '10年1月11日号)

ISP 関連企業の「Android 端末」ネットを基盤に脱売切りを目指す などを参考)

(注)

本解説は、執筆当時の状況に基づいて解説をしております。ご覧になる時には、状況が変わっている可能性がありますので、ご注意をお願いします。

Copyright (C) Satoru Haga 2010, All right reserved.

技術・経営の戦略研究・トータルサポーター	工学博士 中小企業診断士 社会保険労務士(登録予定)
ティー・エム研究所	代表 芳賀 知
E-Mail: info_tm-lab@mbn.nifty.com	URL: http://tm-lab@a.la9.jp/